

## 米国南部の温もり

私はバージニア州の首都リッチモンドで育ったのですが、そこから18歳のときに逃げ出しました。南北戦争に負けた南部側の首都であったリッチモンドは、あまりに保守的でドメスティックであり、国際感覚や外国語などの異文化に興味を持った少年には、監獄のように見えたのです。それで、リッチモンドの北方にあるワシントンDCの大学に入学し、そこで「文明開化」をしたのです！

しかし、変れば変るもので、30代に乗った今の私は、その保守性によって守られてきているバージニア州の色々な趣が素晴らしく見えるようになってきました。

私が住んでいるNorthern Virginiaは、隣接するワシントンDCの一部あるいはその衛星都市のようなもので、世界の種々雑多な文化を抱いた自由な雰囲気があります。一方、私が育ったリッチモンドは、外から入ってきた大学生は別にして、アメリカ人の白人と黒人しかいません。この雰囲気は、Northern Virginia以外、バージニア州のどの町でも同じようなものです。



私は1月中旬に、アパラチアン山脈の一部をなすバージニア州のシェナンドアへと小旅行を企てました。禊を求めて山狭の川道Goshen Passという秘境に入る旅で、山々に包まれたFox Hillと云うB&B（ベッド・アンド・ブレックファスト）で宿泊しました。

米国のB&Bには一般に、通常のホテルより素敵な客室があります。私が借りた二階の部屋は、広くて、大きなベッド、暖炉、化粧室およびリビングが付いていました。同時に宿泊する客数が少ないし、静かで落ち着いた雰囲気です。朝食は、決まった時刻に宿泊している皆で一緒にとります。

Fox Hillでは、オーナー夫婦が、朝食を作ってテーブルまで持ってきてくれました。そして、テーブルの近くに座りながら宿泊客の話に乗ってきて話を弾ませます。その横で飼い犬が寝そべっています。久しぶりに味わう親しみに富んだアメリカの朝食でした。

今回の小旅行では、初めて冬のB&Bを試しました。春・夏に行くと鹿の家族に出会ったり、妖精に似たハチドリが儂い飛行線を描

いてくれたりするのですが、冬には冬の良さがあります。今回のFox Hillでは、ピリリとした冬の寒さと、暖炉の温もりが心をリラックスさせてくれました。

Fox Hillから一番近い町はレキシントンです。レキシントンは、南部の伝統をしっかりと維持しています。町の中心にあるワシントン・アンド・リー大学とバージニア州立軍人養成大学に様々な地方から学生が集まってきているにもかかわらず、とても落ち着いた雰囲気があります。見学に一日もかからないほどに小さな町の道をゆっくり歩みながら、昔からの建物に入った古着屋や古本屋を覗いたり、町で唯一のコーヒーショップで旨いラッテを飲んだりしながら、アメリカ南部の“ノンビリ”を感じることができました。

もちろん、レキシントンが有名なのはそれが理由ではありません。南北戦争時の南軍の指揮官ロバート・E・リーと名将軍ストーンウォール・ジャクソンが居を構えた歴史があるのです。

ジャクソンは、1851年に州立軍人養成大学に教師として雇われました。彼は、南北戦争で、数に勝る北軍の攻勢の前に激しい戦闘が続く戦場であって石の壁のように直立不動で指揮にあたったことから、「ストーンウォール」という渾名で呼ばれています。残念ながら、南北戦争の終結を待たず戦死してしまいましたが、彼の勇敢さは今も語り継がれています。

リーは、南軍が負けた後にレキシントンに住むことにしました。ワシントン・アンド・リー大学（当時はワシントン大学）の学長になり、その立場から南部のアメリカ合衆国への再統合を手伝いたいと望んでいたそうです。

これら二人の名を冠した祝日がバージニア州にあります。1月13日のLee-Jackson Dayです。Lee-Jackson Dayには、人々は、南北戦争に負けた南軍の軍服を着て、負けた南部の旗を振ります。昔の私は、そんな人々を見



て、負けた側の旗を振って何が嬉しいのかとったりしてしていました。しかし、今回は、彼らの服や旗に同調する気持ちが生まれてきている自分を感じました。

南北戦争は、人種だけに関する紛争ではなく、地域のプライドやアイデンティティを賭けた戦いだったのです。今回の小旅行でレキシントンに行ったのは14日だったのですが、13日から続くお祭りは続いていました。人間心理を理解するのは、なかなか難しいものです。B&Bでもてなしだけでなく、負けた南軍の軍服を着た人々、負けた南部の旗を振る人々からも温もりを感じました。

今回の小旅行では、B&Bでの穏やかな宿泊を目指していた私でしたが、ついでに訪れた「昔」を守る町にも魅了されて、人の気持ちの“温もり”についてチョッピリ観方が変わったように思いました。

### 筆者紹介

ネルソン・グラム

U.S. Attorney (Virginia Bar), Global IP Counselors, LLP 所属。

1981年米国バージニア州生まれ。ジョージ・ワシントン大学 (DC) で国際関係論を学びながら、ウルグアイ大使館でインターン。卒業後、2003年渡日、香川県三野町（現在三豊市）の国際交流協会で一年勤務。うどんが大好物となる。帰国後、ジョージ・メーソン大学ロースクール卒。2008年8月からGlobal IP Counselors, LLPに弁護士として勤務。趣味は読書、運動。好きな言葉は「鳴かぬ鶯が身を焦がす」。